

講義 I

# 出典と書誌情報の示し方 (I)

アカデミック・ライティング A

第 11 回

# この講義で学ぶこと

- レポートでの書誌情報の示し方
  - レポートでは文献にある他人発の情報を使用する。
  - 書籍、論文、雑誌・新聞記事など、レポートで使用した文献の情報（出典と書誌情報）は必ず示さなくてはならない。そのルールを学ぶ。
  - 書誌情報とは著者名や出版年、出版社といった文献の固有情報のこと。

## 参照文献と参考文献の違い

**参照文献**: レポート内で、著者姓(出版年)を示してとりあげた文献。読んだだけでレポート内でとりあげなかった文献は含めない。

– レポート内に登場する著者姓(出版年)のことを「**出典**」と呼ぶ。例: 大津(2018)

**参考文献**: レポートを書くため参考にしたが、レポート内でとりあげなかった文献。

## 出典とは

- レポートの本文中で他人発の情報を紹介するときに示す、文献の書誌情報の一部のこと。
  - 出典がないと、他人の文章や情報を盗んだことになり(剽窃)、不正行為と見なされる。
- 出典は、著者姓(もしくは団体名)と出版年の2つを示すことが標準的である。

# 出典の示し方の例

大津(2018)は、そぎ落としとは一度身につけた知識や技能を白紙に戻すことだと述べている。

著者姓または団体名

国の整備計画では、新幹線を札幌まで延伸する計画である。北海道新幹線建設促進期成会(2007)によると、そのルートは新函館北斗から八雲、長万部、倶知安、小樽を通過して札幌に到着するというものである。

## 出典の示し方（応用編）

- 非漢字圏の著者名も、出典は姓だけで示す。

例：マイケル・ジャクソンの2009年の著書

ジャクソン(2009) ※ 姓を正確に調べよう。

- 著者が3人以上の場合は省略表記が可能。

例：大津ほか(2016)

– 大津・橋本・飯田・田中(2016)のようにすべて示してもOK。

## 参照文献覧の作成

- 参照文献欄とは、レポート本文中の**出典に対応する文献の書誌情報の一覧**。レポート末に示す。
- レポート内で出典を示してとりあげなかった文献、つまり**参考文献**は含めない。
- これ以降は、補足資料「書誌情報の示し方」もチェックしながら話を聞こう。

# 参照文献欄の例（レポート末）

## 参照文献

海渡雄一・筒井哲郎（2018）『沿線住民は眠れない：京王線高架化計画を地下化に』緑風出版.

袖山香織・樋口雄大（2019）「『要対策土』受け入れ候補地の札幌市内2地区：下旬から説明会 騒音や事故対策求める声」『北海道新聞』2019年7月19日朝刊.

鉄道建設・運輸施設整備支援機構（2022）「新函館北斗・札幌間の諸元表」<https://www.jr-tt.go.jp/project/hokkaido.html>（2024年6月30日閲覧）.

船橋晴俊（1990）「フランスにおける新幹線公害対策: 緑地歩道とその実現過程-上-」『公害研究』19（4）. 61-67.

船橋晴俊・長谷川公一・畠中宗一・勝田晴美（1985）『新幹線公害：高速文明の社会問題』有斐閣.



## 参照文献欄のルール(2)

- 書誌情報は**文献ごとに改行**する。
  - 1つの書誌情報が2行以上になる場合は、2行目以降を3字程度インデント(行頭下げ)する。

**海**渡雄一・筒井哲郎(2018)『沿線住民は眠れない：京王線高架化計画を地下化に』緑風出版。

**金**田章宏(1992)「『二重』表示現象をめぐって：八丈島三根方言を例に」仁田義雄編『日本語の格をめぐって』163-189. くろしお出版。

**金**田章宏(2023)「宮古語大神方言 助辞na:の複数性をめぐって」『琉球の方言』(46). 85-106.

インデントによって各文献の先頭がわかりやすくなる

## 参照文献欄のルール(3)

- フルネームで著者姓名を示す。
- 共著（著者が複数いる文献）の場合は、文献で示されている順に全員の姓名を示す。
- 著者間には中黒（・）で区切る。

例:

船橋晴俊・長谷川公一・畠中宗一・勝田晴美（1985）『新  
幹線公害: 高速文明の社会問題』有斐閣.

↑  
4名の著者による共著文献

# 非漢字圏の著者名

- 参照文献欄での非漢字圏の著者名の示し方に注意しよう。
  - 姓名の順で示す。
  - 姓と名の間はコンマで区切って示す。

